

# まいぶんfan

向日市の埋蔵文化財の最新情報を提供します。

Archaeological Information of Muko-city, Kyoto-pref. Japan



南条3号墳全景(2011年8月:西から)

## ～南条3号墳の調査成果～

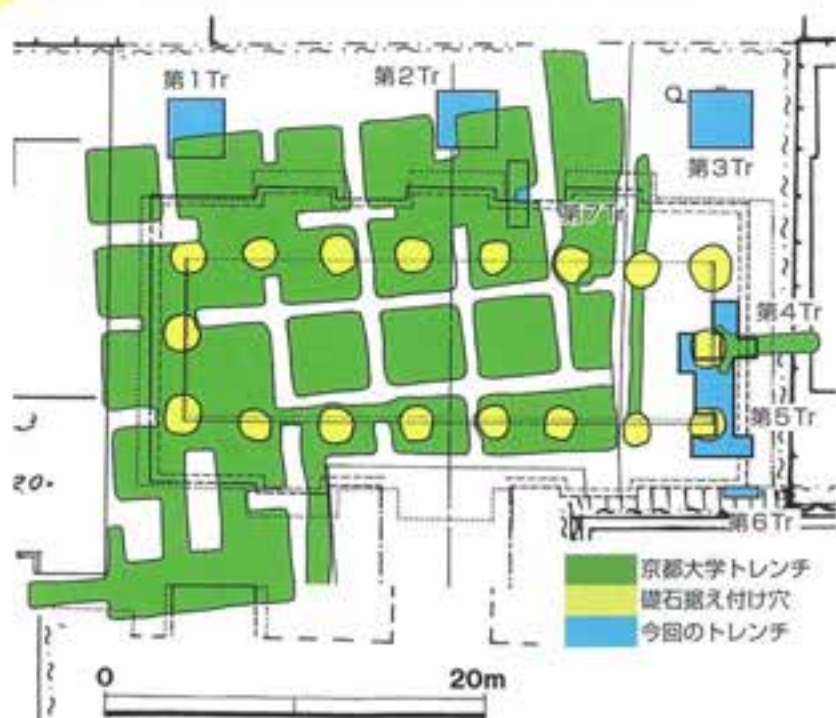
南条3号墳は物集女町南条に所在します。2008年から2011年にかけて調査を実施しました。その結果、これまで23.5m前後と考えられてきた墳丘の直径が28m前後であったことが判明しました。今、古墳は周辺の開発で立地する景観が大きく変わろうとしています。こうした景観の変化は古墳が作られた時にも同様に見られたことでしょう。

開催日	秋・冬のイベント
9月16日(日)	第3回 市民考古学講座「先史時代の遺跡と環境」森岡秀人先生・國下多美樹先生
11月10日(土)	第4回 市民考古学講座「歴史時代の遺跡と環境」館野和己先生
10月21日(日)	第1回 まいぶんサロン「長岡京の文字瓦」中島信親
11月23日(金・祝)	第2回 まいぶんサロン「小畑川と西国街道界わいの自然・遺跡・歴史」中塚良
12月15日(土)	第3回 まいぶんサロン「邪馬台国とオトクニ」梅本康広
1月19日(土)	第4回 まいぶんサロン「長岡宮朝堂院はどう考えられてきたか」松崎俊郎
12月2日(日)	講演会「地震考古学の世界へようこそ」寒川旭先生



たいこく ぜんこう ぜん      しょうあん ぜん  
 長岡宮大極殿後殿（小安殿）の調査～長岡宮跡第490調査～

向日市鶏冠井町大極殿



小安殿平面図



50年ぶりに姿を現した礎石据え付け穴（第4トレンチ、南から）



大極殿公園の風景（手前：大極殿、奥：小安殿、南から）

大極殿後殿は、大極殿院を構成する施設の一つで、正殿である大極殿の北に位置する建物です。天皇が政務や儀式のために大極殿へお出ましになる際の休息所として用いられました。平安宮では小安殿（こあどの）と呼ばれています。昭和36（1961）年に京都大学によって発掘調査が行われ、東西7間、南北2間、柱間14尺（約4.1m）の礎石建物が確認されました。その後50年を経て、公園の整備工事に先立って再発掘しました。

調査では、7箇所のトレンチを掘り下げ、東側の第4・5トレンチで建物東端の礎石据え付け穴2基、北側の第1・2・7トレンチで基壇外周の石敷き、また下層で後殿造営に先立つ長岡京期の整地層を確認しました。礎石据え付け穴は、直径約2.0m、深さ約0.5mの大きさで、建物の重みを受ける礎石を支えるため、根固めの石と版築によって叩き締められた粘土で堅固に埋められていました。石敷きは、数cm～こぶし大程度の礫が基壇に近い箇所を中心にやや密に広がる様子を確認しました。

調査区のほぼ全域で確認した整地層は予想よりも厚く、約0.5mの厚さでした。大極殿やその南の宝輪遺構が基盤の段丘層上面から構築されていることは異なります。後殿は、大極殿から北へくだる斜面を造成して建てられたことがわかりました。また、京都大学が調査した時のトレンチを5箇所を確認することができました。50年前の成果を、現在の精度で地図上に当てはめるための貴重な資料を得ることができました。

大極殿後殿は、古代宮都の諸施設の中で大極殿につく重要な建物の一つです。長岡宮大極殿は後世に大きく破壊され、礎石はおろか基壇とともに礎石据え付け穴も確認できませんでした。

今回の調査により、大極殿後殿の基礎構造が明らかになったことで、長岡宮大極殿について、基壇の高さや基礎構造を復原するうえでの重要な手掛かりを得ることができました。（中島信親）



## 「遺跡と環境」

～市民考古学講座へのいざない「環境にまなぶ」～

いにしえより、ひとびとは長い年月をかけて大地に生活のあかしを刻んできました。私たちが日々ながめる景色はそれらの痕跡の積み重なりでできています。当センターではこうした痕跡を掘りおこし、ひとびとと大地・自然の関わりについてしらべてきました。

今回の講座は、長岡京をはじめ乙訓地域の遺跡の発掘成果を出発に、私たちをとり巻く自然や社会の移ろい、すなわち環境の歴史を紐解き、これからの暮らしに生かすてがかりをさぐる機会にしたいと考えています。

### 第3回 講座 「先史時代の遺跡と環境」

平成24年9月16日(日) 午後1時～4時

「縄文・弥生時代の集落と環境選択」

講師 森岡秀人 先生

(日本文化財科学会評議員・日本考古学協会理事)

「乙訓地域の縄文・弥生時代遺跡と環境」

講師 國下多美樹 先生 (龍谷大学特任教授)



長岡京左京第254次出土の弥生土器

### 第4回 講座 「歴史時代の遺跡と環境」

平成24年11月10日(土) 午後2時～4時

「遷都前後の歴史環境-平城京を中心に-」

講師 舘野和己 先生 (奈良女子大学教授)

<趣旨説明> 「廃都直後の長岡京」 中島信親



平城京朱雀門 (南から)

会場：向日市文化資料館 向日市寺戸町南垣内、阪急東向日駅から徒歩8分

定員：80名 (定員になり次第締切) 参加費：無料

申込み：電話でお申し込みください。(公財)向日市埋蔵文化財センター (電話075-931-3841)

主催：向日市教育委員会・公益財団法人向日市埋蔵文化財センター

## 平成24年度市民考古学講座講演会

### 寒川旭先生「地震考古学の世界へようこそ」

日時 平成24年12月2日(日)

午後2時～4時

会場 向日市民会館第1会議室

向日市寺戸町中ノ段17-1

阪急東向日駅から徒歩10分

定員 120名 無料 申し込み不要

寒川 旭(さんがわ あきら)氏

1947年香川県生まれ。

東北大学大学院理学研究科博士課程修了(理学博士)

通商産業省工業技術院地質調査所を経て

独立行政法人産業技術総合研究所招聘研究員。

専門は地震考古学、地震地質学

■主な著書

「地震考古学 遺跡が語る地震の歴史」中公新書1992

「地震の日本史-大地は何を語るのか」中公新書2011





## ミニ講座 「まいぶんサロン」

～江戸時代の町屋建物で歴史を語ろう～

市内の発掘調査では最近、重要な発見が続いています。これまでの通説に変更をせまる興味深い最新の研究成果について、当センターの職員がわかりやすく紹介します。

江戸時代の町屋建物である富永屋と中小路家住宅のお座敷で楽しく語り合い、歴史ロマンを感じるひとときをすごしませんか。

〔第1回〕「長岡京の文字瓦」 中島信親

日 時 10月21日(日) 午後2:00～午後4:00

場 所 富永屋

〔第2回〕「小畑川と西国街道界わいの自然・遺跡・歴史」 中塚良

日 時 11月23日(金・祝日) 午後1:00～午後4:00

場 所 阪急西向日駅西口改札前集合、周辺見学の後、中小路家住宅

〔第3回〕「邪馬台国とオトクニ」 梅本康広

日 時 12月15日(土) 午後2:00～午後4:00

場 所 中小路家住宅

〔第4回〕「長岡宮朝堂院はどう考えられてきたか」 松崎俊郎

日 時 1月19日(土) 午後2:00～午後4:00

場 所 中小路家住宅

定 員：25名 定員になり次第締め切り。

参加費：各回300円、第2回のみ保険料(150円)が別に必要となります。

申込み：電話でお申し込みください。

(公財) 向日市埋蔵文化財センター (電話075-931-3841)

第1・2回は9月15日より、第3・4回は11月15日より各開催日1週間前まで受付

主 催：公益財団法人向日市埋蔵文化財センター

「富永屋」は、西国街道に沿って建つ民家です。測量旅行中の伊能忠敬も泊まったといわれています。享保20(1735)年に建てられて以降、一部改築されていますが、当初の建築材木が多く残っており、貴重な町屋遺構と評価されています。



(寺戸町東ノ段1 阪急西向日駅より徒歩約10分)

「中小路家住宅」は、西国街道に沿って建つ、上質なつくりの座敷を備えた大形民家です。弘化5(1848)年に建てられて以降、内蔵を増築し土間を板間にするなどの手が加えられているものの、今日まで大きな変更なく、建築当時の姿が保たれています。(国登録文化財)



(上植野町下川原48 阪急西向日駅より徒歩約8分)

編集・発行

公益財団法人向日市埋蔵文化財センター  
住所 〒617-0004 京都府向日市鶏冠井町上古23  
TEL: 075-931-3841 FAX: 075-931-4004  
<http://www.mukoumaibun.or.jp>  
平成24年(2012)年9月1日